

令和5年度

古文書解読講座（中級） 大原家文書を読む

倉敷市総務課歴史資料整備室

第1回「金基と倉敷代官」

令和5年7月22日（土）

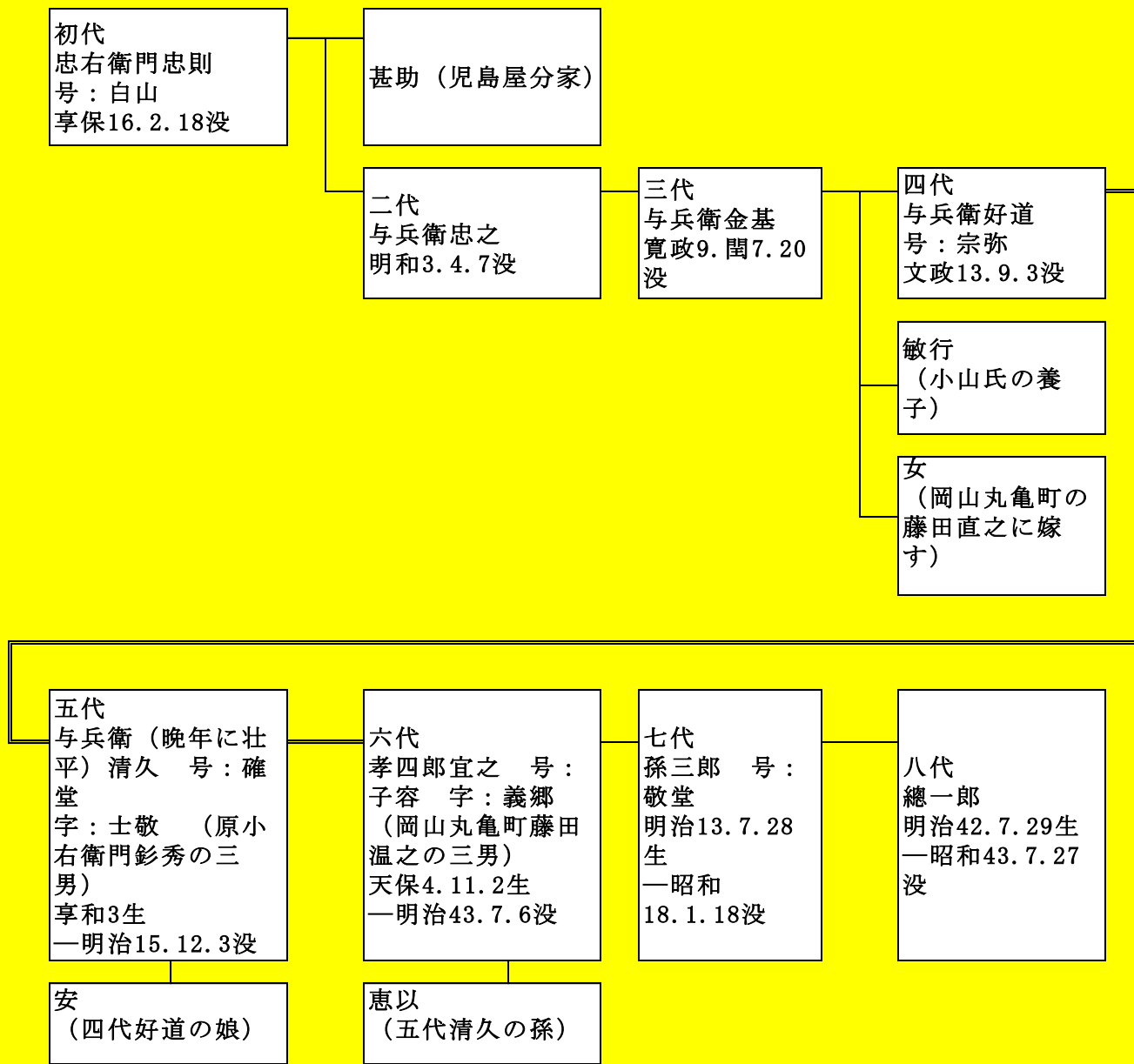
担当：山 本 太 郎

語らい座 大原本邸



語らい座 大原本邸





大原家略系図

墓碑, 『倉敷市史』第五冊252～255頁, 『大原孫三郎傳』から作成。＝は養子関係。

倉敷村の大原家

- ✕ 初代忠則（1678-1731）が元禄年中（1688-1704）に児島郡片岡村から倉敷村へ移住。
- ✕ 二代忠之（1711-1766）から通称を与兵衛とした。
- ✕ 三代金基（1747-1797）は、繰綿問屋の下で下仲買を営んでいた。民間主導の相互扶助組織である倉敷義倉の義衆にも名を連ねた。（山本太郎「江戸時代の大原家」（『大原孫三郎・総一郎研究』創刊号、公益財団法人有隣会、2015年））

三代金基



通称与兵衛。19歳で家督を継ぎ、刻苦廉儉し、自ら家を興そうとした。菅谷代官がその謹厚を褒賜した。寛政9年(1797)閏7月20日没。51歳。(墓碑)

天明8年(1788)倉敷義倉に3斗出麦した(新義衆26人のうちの一人)。

長男好道が継ぎ、次男敏行は小山家の養子。娘は岡山の藤田直之に嫁す。

倉敷代官菅谷弥五郎

- ✕ 享保19年（1734）～寛政12年（1800）
- ✕ 天明6年（1786）12月19日、支配勘定から勘定（御目見以上）に昇任し、評定所留役助から留役に昇任する。天明8年5月2日、備中・伊予・讃岐5万石代官に任命され、7月29日御暇し、備中国倉敷陣屋で支配にあたる。（『徳川幕府代官人名辞典』、2015年、東京堂出版）
- ✕ 「天明八年申九月上旬之御出 一同 菅谷弥五郎様 三年御勤 当御役所初り以来御政道 厳敷、依之御支配之内能治り」（金基覚書）

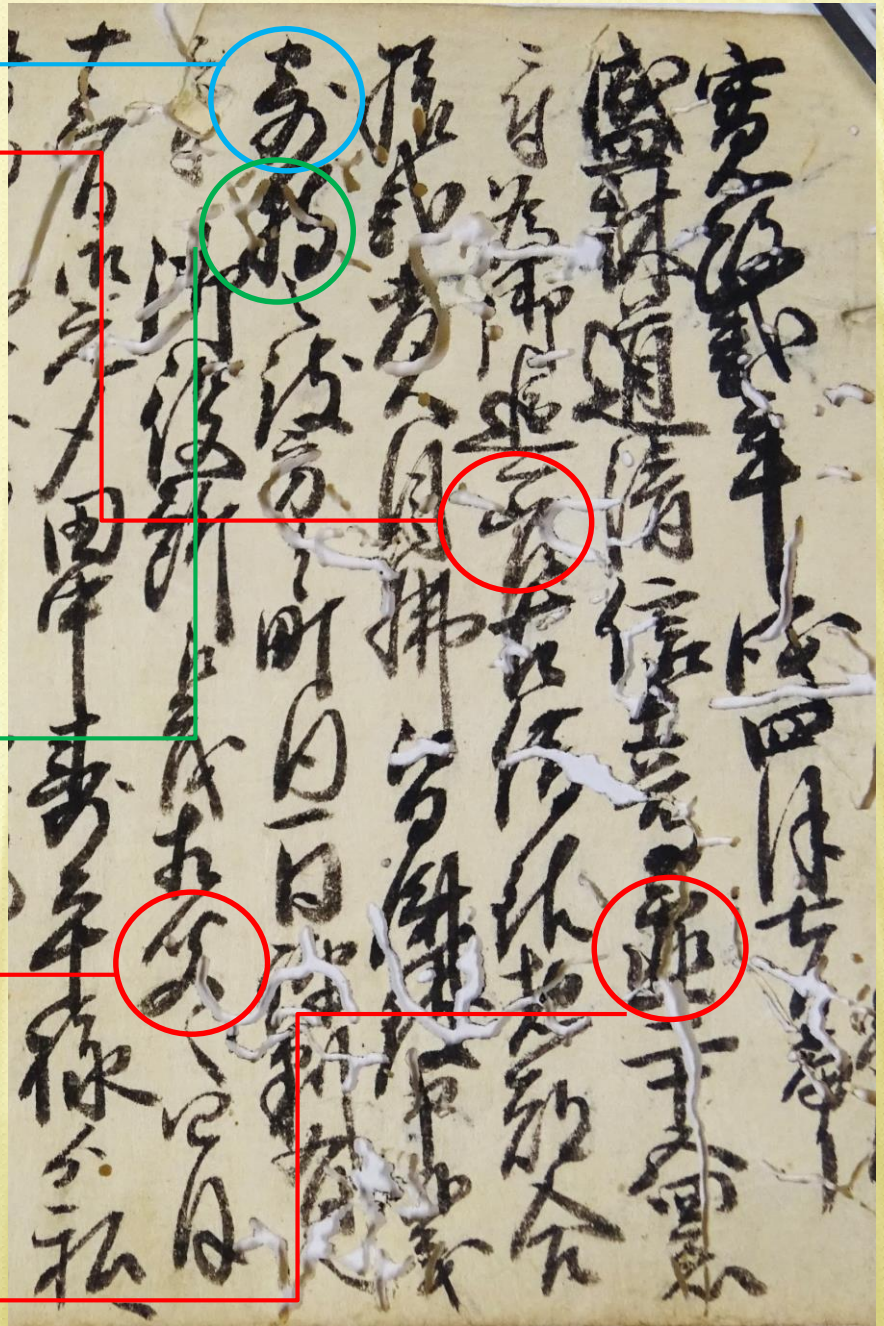
第1回古文書解読講座(中級)予習史料

大原家文書 金基覺書

寶曆元年四月廿七日
盛林通信信亮並主命
自京都來在任所起教令
張氏方月拂方解中書
前時波高町日口新有
所設新義友之口日
寺乃宗人甲來年保分松
當此世安由子觀龍子以爲
石中江下出所山日更速於
常寺寺中近日因年長極苦
災事更甚極非外藥力不接
其亡之哀云云能十人云云
身より之病痛なり宗家宗家
以下皆傳記也

右述三人、校方少俊、夜半、
南校中、協（？）、多（？）、為（？）、文、
辛酉、古、活、所、代、年、才
市、平、日、德、約、後、年、
經、系、年、修、委、布、後、房、河
寺、國、或、大、文、如、石、之、人、以、言
不、事、書、上、下、制、以、作、能、

7 6 5 4 3 2 1



629
善
よげん
く

善善善善
善善善善
善善善善

861
奇
いく
き
ひ
い
つ
わ
い
ま
り

奇奇奇奇
奇奇奇奇
奇奇奇奇

5968
靈
り
れ
い
よ
う
た
ま
し
い

靈靈靈靈
靈靈靈靈
靈靈靈靈

3020
特
た
と
く
ひ
た
に
と
り

特特特特
特特特特
特特特特

4259
聞
も
ん
き
く
ん
き
こ
え
る
さ
か
せ
る

聞聞聞聞
聞聞聞聞
聞聞聞聞

(くずし字の字形は『くずし字用例辞典』(東京堂出版)より、以下同)

14 13 12 11 10 9 8

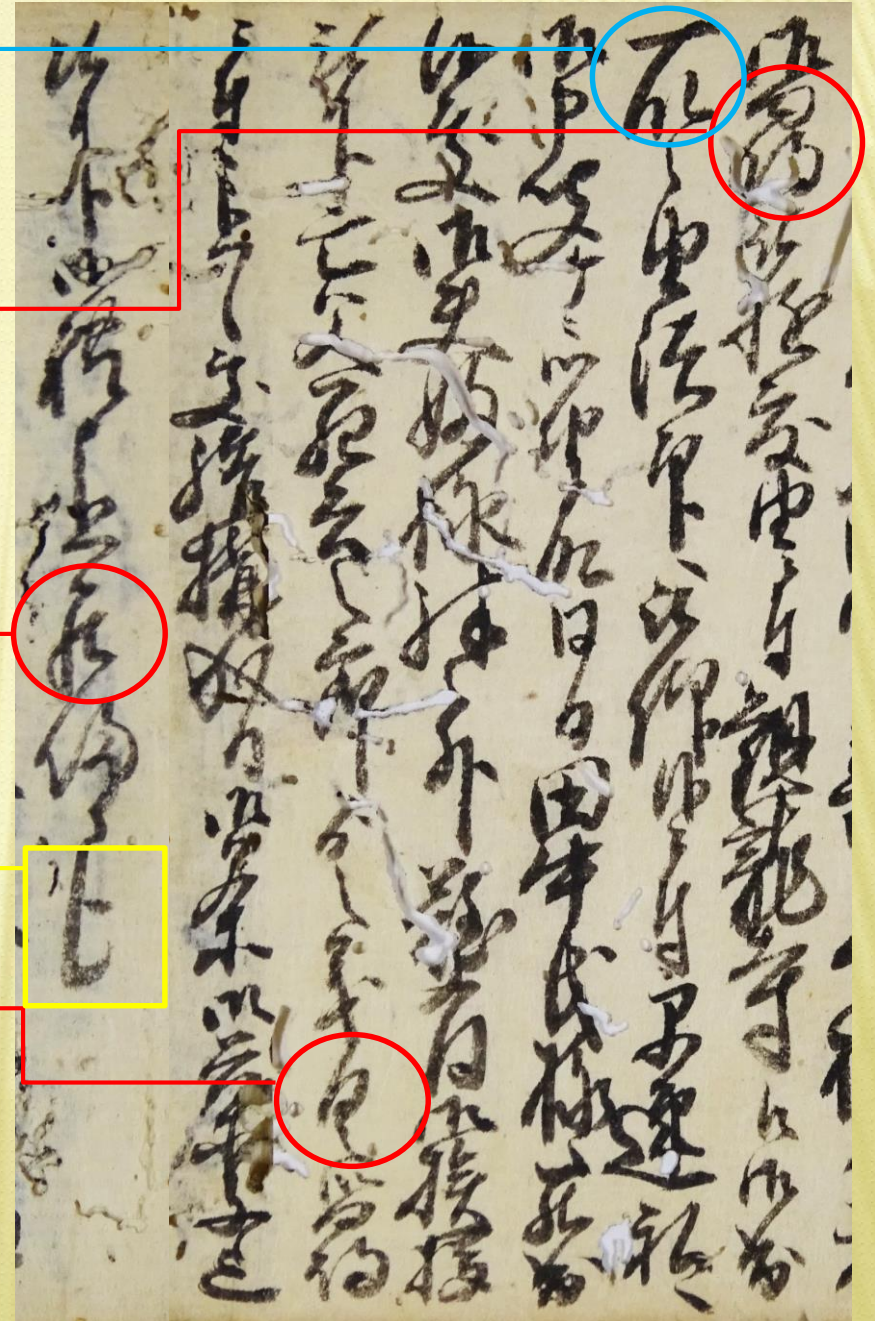
525
右 ユウ
みぎ
たすける
右各。右大右
↓かな「う」
「右」字の書
順はノナ右
で、「左」の一ナ左とは異なるが、左
と同じく一ナ右と書くこともある。
右大右大
↓かな「つ」

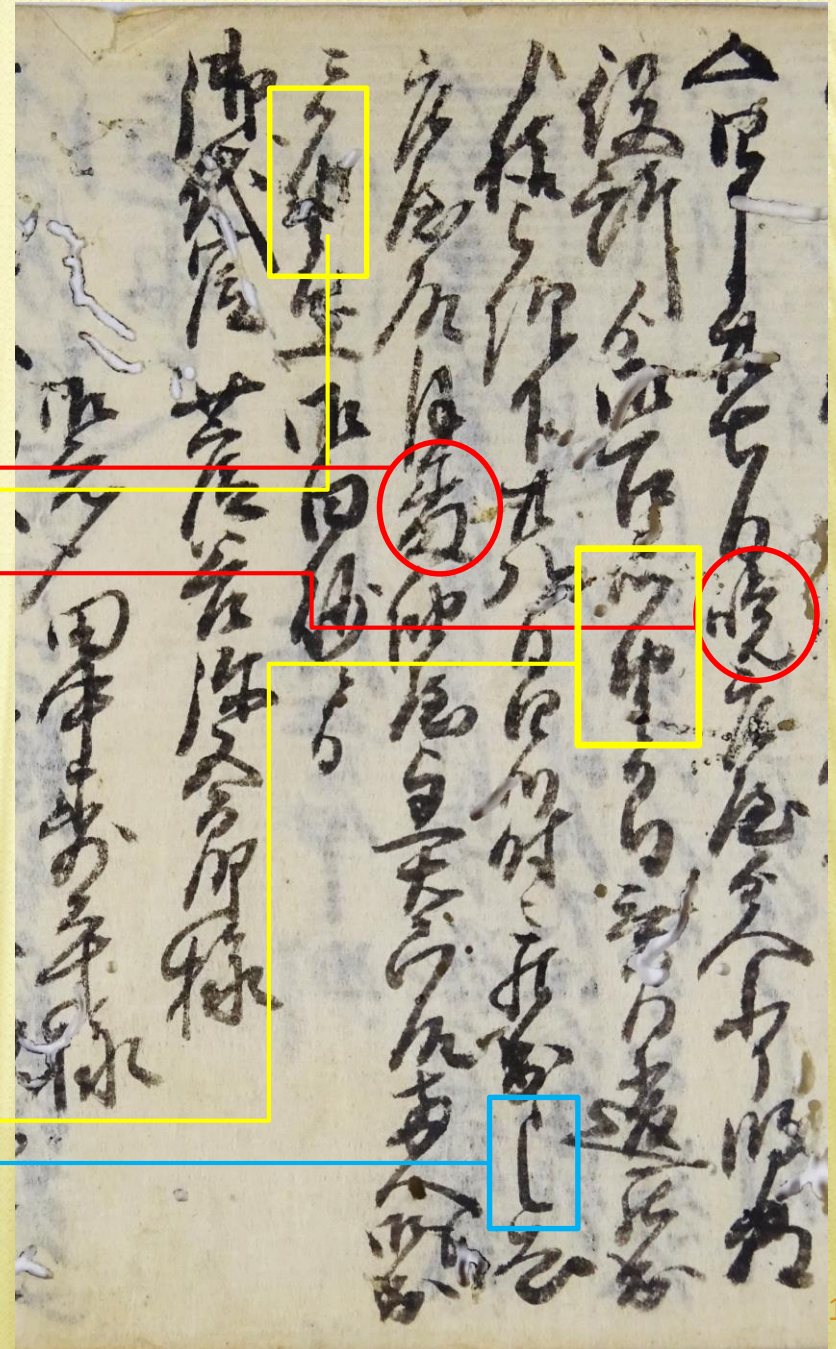
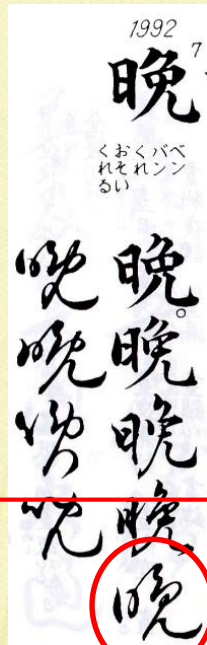
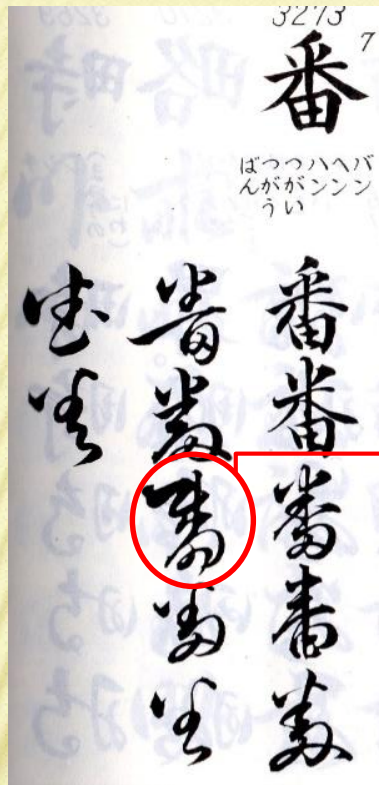
1069
尋 ジン
もろに
ついで
ひろ
尋尋。尋尋尋
尋尋尋尋尋
尋尋尋尋尋
尋尋尋尋尋

298
具 ツグ
もつ
つな
な
に
具具。具具具
具具具具具
具具具具具
具具具具具

4168
罷 ハハ
つや
め
る
ま
か
れ
る
罷罷罷罷
罷罷罷罷

申候





御座候

申候

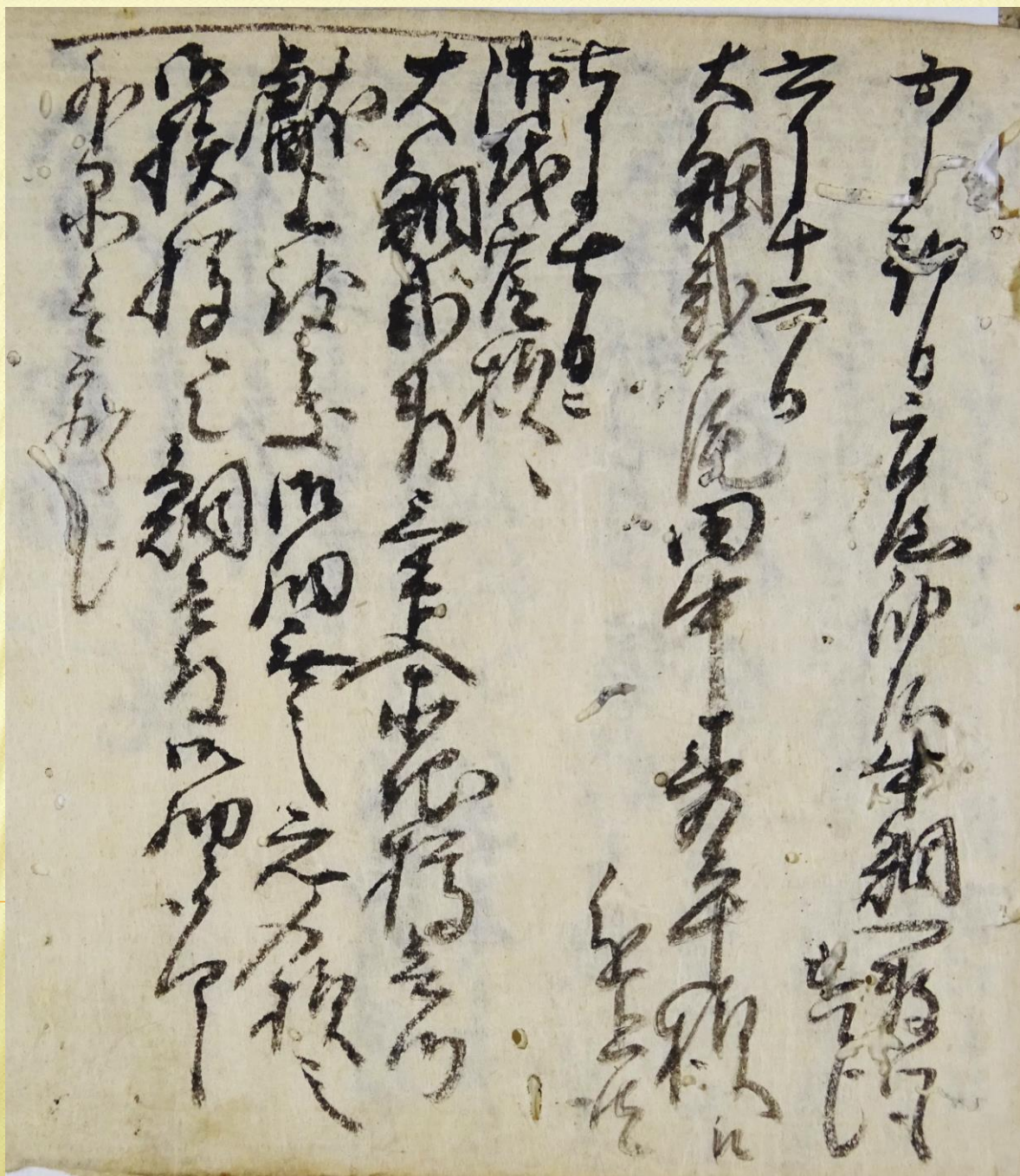
第1回古文書解読講座（中級）演習史料

大原家文書 金基覚書

其方安亡父存年志
 方安存年志
 傳紙とも常備
 泣房相國より
 為用之
 戊申月日
 在在書
 中一
 多

第1回古文書解読講座（中級）演習史料

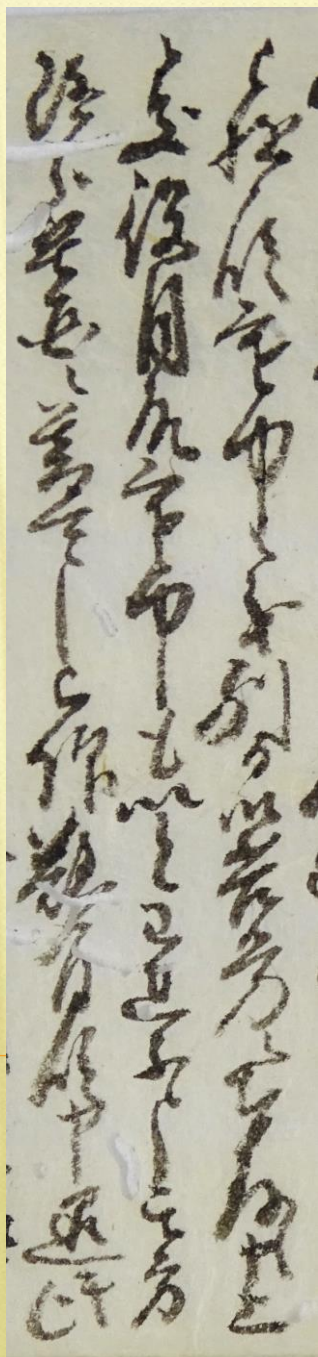
大原家文書 金基覺書



（中略）

第1回古文書解読講座（中級）演習史料

大原家文書 金基覚書



4 三代金基

- ✕ 寛政2年12月13日、菅谷代官が石州へ発駕。与兵衛も尾崎村まで見送り。石見への道筋は雪が降り通行が困難なので、奥様や若旦那家内は酒津村伝右衛門屋敷に逗留し越年。年末の12月28日に参上して真鳥1羽・菊水酒八升樽1つ・美濃干柿1籠を差し上げた。寛政3年1月3日に年頭のお礼に参上。2月11日出立のときも川辺まで見送り。

4 三代金基

- ✖ 菅谷代官の元締田中寿平が大坂鈴木町の羽倉権九郎代官の下役人になるため寛政2年10月13日大坂へ引っ越すときも金基は浜村まで見送り。田中は引っ越す前に金基宅を訪問。代官手代の吉田泰蔵も代官出発の跡片付けをして12月15日に出発する前に金基宅を訪問。
- ✖ 寛政7年、金基は家を普請。2月17日から取り掛かり5月12日棟上げ。棟梁は善助・伊八、そのほか6人。

(以上、大原家文書「金基覚書」)